

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 中間評価

学校名	白石町立有明東小学校
-----	------------

達成度（評価） A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・「業務改善・教職員の働き方改革の推進」以外は、どの項目においても、計画に沿って一年間しっかり取り組むことができ、どの項目も「おおむね達成できている」以上の評価となった。 ・日々の協働的な学びにつながる対話活動を取り入れた授業の実施や特別支援教育の取組など、専門性と意識を向上させながら取り組むことができた。
------------------	---

2 学校教育目標	生きる力を身に付け 学校・家庭・地域の思いを受け継ぐ 東っ子の育成
----------	-----------------------------------

3 本年度の重点目標	① 進んで学ぶ子ども【知】確かな学力・知恵を磨く(表現力) ② さわやかな子ども【徳】やさしい心・人と関わる力を培う(自己肯定感・コミュニケーション力) ③ たくましい子ども【体】健康で元気な態度を育む(心の安定)
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価
---------------	------

(1)共通評価項目					
重点取組			具体的取組	中間評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し
●学力の向上	○様々な場面での交流活動の充実と表現力の向上	○「協働的な学びにつながる交流活動を取り入れた授業を行っている」の質問に対して肯定的な回答をする職員の割合を80%以上にする。	・協働的な学びの場を醸成できる課題やめあての在り方を、教材研究・児童理解の双方から探る。また、研究授業や理論研究を通して、具体的な授業の姿を確立していく。	B	「協働的な学びにつながる交流活動を取り入れた授業を行っている」の質問に対して肯定的な回答をする職員の割合は87%であり、目標を達成している。しかし、「よくあてはまる」と答えた職員は27%に留まった。今後佐賀県学力向上対策検証・改善委員会を受けた重点取り組みのチェックシート等を活用し、夏季休業中に実施した学力向上対策の重点項目に取り組んでいくよう、定期的に振り返り機会を設定する。
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「自分や友だちのよさを認め、仲良く活動することができる」という児童を80%以上にする。	・自分のよさに気付き、他者への思いやりの心を育て、仲良く活動することができるような取組や指導を工夫する。	B	「児童用アンケートにおいて、自分のよさに気付いている児童は78%、友だちのよさに気付いている児童は97%であった。今後も、日常の活動に加えて全校での取組である「キラキラカード」を推進していくことで、自他のよさに気付くことができる児童が増えるように指導を継続していく。
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○小さないじめ事案であっても見逃さないように、報告・連絡・相談をしようと務めた職員の割合を100%にする。 ○「学校は、いじめをしない思いやりの心が育つような教育を行っている」という保護者の割合を60%以上にする。	・小さないじめ事案であっても、関係者の話し合いやケース会議を行い、事案を把握するように務める。 ・児童理解連絡会を定期的に行い、職員全体で共通理解を図る。 ・児童観察や定期的なアンケートで実態を把握し、問題行動やいじめに迅速に対応する。	B	「いじめ事案等が発生した場合の「報告・連絡・相談」を徹底し、管理職を含めた組織的な対応をする中で素早い解決につながった。職員に対するアンケート結果も100%であった。そのことが保護者アンケートで94%が肯定的な評価であったが、「よくあてはまる」は27%であった。 ・児童理解連絡会を定期的に行うことで、職員全体での共通理解を図ることができた。 ・「こころのアンケート」などを実施することで、児童の実態を把握することができた。聞き取りの時間を確保することが今後の課題である。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上にする。 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上にする。	・日頃の帰りの会やお便りなどで、声掛けをしたりよいところを伝えたりする。 ・キャリアパスポートを活用し、行事ごとにふり返りをさせ、いつでも児童に自分の足跡を確認できるようにする。	B	「先生はあなたのよいところを認めてくれますか」の質問に対して96%の児童が肯定的な回答をしながら、先生からよいところを理解してもらえていると感じている。 ・「あなたは、将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対して78%の児童が将来の夢や目標を持っていると感じている。80%に達していないが、2学期以降の行事のふり返りでキャリアパスポートを活用したり、外部講師を積極的に招聘し多様な考え方に触れさせたりしていく。そして、自分の成長を実感したり自分の可能性を見つけたりできるように指導を行っていく。 ・「キャリアパスポート」を活用し、夢や目標に向かって努力する気持ちを高めるような指導を行っている」の質問に対して80%の職員が肯定的な回答をしているが、「よくあてはまる」の回答者はなかった。
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○次の時間の準備をして、休み時間を過ごすことができる児童の割合を90%以上にする。 ○進んであいさつができる児童の割合を90%以上にする。	・月の生活目標と関連させた指導を行う。 ・学年に応じた挨拶の指導をする。また、定期的に振り返りの時間を設け、意識付けを行う。 ・「あいさつ週間」を設定し、挨拶に対する児童の意識を高め、よく頑張っている児童をほめる。	B	・月の生活目標と関連させた指導や定期的な振り返りの時間の確保、「あいさつ週間」の設定をすることによって、児童の意識は高まりつつある。 ・「次の時間の準備をして、休み時間を過ごすことができる」の質問に対して89%の児童が肯定的な回答をしているが、数値目標には達していない。今後も学年の実態に応じた指導を継続して行う必要がある。 ・「すすんで気持ちのよいあいさつができる」の質問に対しては、93%の児童が肯定的な評価だったが、実際に「すすんで」「気持ちのよい」挨拶ができている児童の割合は低いと考えられる。今後も各学年の発達段階に応じた指導を行っていく。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45時間 年間360時間)を遵守する。	B	・連絡会の発言予定者を事前に決めたり、また発言予定時間を決めたりして会議の時間削減に務めた。 ・会議や研修を計画的に行い、業務の効率化を図ることができた。 ・月の時間外在校時間が45時間を超える職員の割合は約31%で目標の25%を超える結果となった。
●特別支援教育	○職員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門的支援や合理的配慮の提供が向上した教員の割合を100%にする。	・特別支援に関する研修会を実施する。 ・全職員での児童理解・情報共有を図り、必要に応じてケース会議を開催する。 ・専門家や専門機関との連携を図る。	B	・夏季休業中の特別支援教育エリアリーダー招聘の研修会を悪天候により中止したが、必要に応じ特別支援学校の巡回相談やエリアリーダーの支援を仰ぎ、その都度専門性を高める機会を設けた。 ・実態が必要な児童のケース会議を開いて対応の仕方等について共通理解を図り、指導体制を整えることができた。 ・「学校は子どもの特性に応じた指導を行っている」のアンケートでは90%の保護者が肯定的な評価であったが、「よくあてはまる」は17%であった。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目					
重点取組			具体的取組	中間評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し
○郷土への愛着を高める教育	○ふるさと「白石・有明」の「人、もの、こと」に目を向けさせる教育活動の充実	○地域への好意的な回答をする児童の割合を70%以上にする。 ○「地域と連携した教育を推進している」という保護者及び職員の割合を60%以上にする。	・活動の様子を掲示し、振り返ったり共有したりする。 ・地域の協力者には感謝の気持ちを伝え、双方向の活動にする。	B	「あなたは、地域のこと(人・もの・こと)が好きですか」の質問に対して、96%の児童が地域へ好意的な回答をしている。 ・「地域と連携した教育を推進している」という職員の割合は93%と目標を達成している。しかし、「よくあてはまる」と答えた職員は13%に留まっている。 ・地域と連携した教育を計画的に実施し、それを確実に児童や保護者、地域の方へフィードバックできるように、校長室前に活動紹介コーナーを設置し、周知を図る。

5 総合評価・次年度への展望	・ ・
----------------	--------